



成人式(1月10日)

人事案件・条例案件・

平成21年度一般会計等補正予算・・・・・・・・②

論点 Q&A そこが知りたい・・・・・・・・③～④

一般質問4人 ここが聞きたい・・・・・・・・⑤～⑧

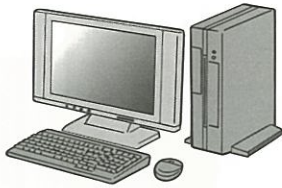
傍聴席から一言(子ども議会の感想)・・・・・・・・⑨～⑪

臨時議会、行政視察研修報告・・・・・・・・⑫

12月定例会

一般会計補正予算

5億1792万9000円を追加し、歳入歳出予算の総額を55億8889万6000円とする補正を全会一致で可決した。



- ① 主なものとして、光プロードバンド整備事業補助金 3億5000万円
- ② 庁舎太陽光パネル設置工事 1250万円
- ③ 子ども医療費助成 698万円
- ④ 県道改良工事負担金 1545万円
- ⑤ 全国瞬時警報システム整備事業 942万円
- ⑥ 統合甲佐小学校外構工事 9500万円
- ⑦ 旧甲佐小学校体育館解体工事 1119万2000円

12月定例会は、11日開会、15日までの実質3日間の審議が行われた。案件は、固定資産評価審査委員会の選任に関する同意案件1件、同文議決案件3件、指定管理者の指定案件1件、条例の一部改正案件4件、平成21年度一般会計等補正予算及び水道事業会計補正予算案件4件、その他の案件が上程され、全て原案どおり可決した。また、請願・陳情については、2件とも採択となった。なお、一般質問には4人の議員が登壇し、町政全般について質問した。

固定資産評価審査委員会委員の選任同意

任期満了に伴う固定資産評価審査委員会委員については、新たに世持の上田眞一氏が選任され、全会一致で同意された。



上田 眞一氏

指定管理者の指定について

甲佐町定住促進住宅「サンコーポラス甲佐」に係る指定管理者の指定については、全会一致で可決した。内容は次のとおり。
① 指定管理候補者 熊本県公営住宅管理セ

ンター共同企業体（コスギ不動産・日本管財）
② 管理期間 平成22年4月1日から平成25年3月31日までの3年間

改正貸金業法の早期完全施行等を求める請願書

西坂親議員が紹介議員となり、熊本県青年司法書士会会長 黒江正志氏から提出されたこの請願は、全会一致で採択された。

【請願内容】

- 一、改正貸金業法を早期に完全施行すること。
- 二、自治体での多重債務相談体制の整備のため、相談員の人件費を含む予算を十分確保すること。
- 三、個人及び中小事業者向けのセーフティネット貸付をさらに充実させること。
- 四、ヤミ金融を徹底的に摘発すること

電源立地地域対策交付金制度の交付期間延長等を求める意見書の提出について

ダム・発電関係市町村全国協議会会長辻一幸氏から提出されたこの要望は、全会一致で採択された。

【要旨】

多くの関係市町村が、平成22年度末をもって交付期限を迎えるため、交付期間延長等を求める。

【要望内容】

- 一、水力交付金は、平成22年度末をもって多くの関係市町村で交付期限を迎えるが、過去30年間にわたる交付実績や、今後とも安定的な水力発電を維持する必要性があることを考慮し、平成23年度以降は恒久的な制度とする。
- 二、原子力発電施設に対する交付金との格差が大きすぎること、考慮し、水力交付金の最高限度額及び最低保証額の引き上げなど、交付条件の改善や事務手続きの簡素化を図ること。

※ 本町には、450万円の電源立地地域対策交付金が交付されています。

そこが 知りたい

Q & A

12月定例会 質疑より



指定管理者で管理される定住促進住宅
「サンコーポラス甲佐」

甲佐町定住促進住宅
「サンコーポラス甲佐」
の指定管理者の指定につ
いて

Q 甲佐町定住促進住宅「サンコーポラス甲佐」の指定管理者に熊本県公営住宅管理センター共同企業体（コスギ不動産と日本管財）を指定した理由は。

A プロポーザル方式により、甲佐町定住促進住宅指定管理候補者選定委員会要綱に基づき、選定委員である税理士の方や県住宅課の専門の職員、町関係者六人で審査した。二社から応募があり、

審査内容は管理料を含め、事業の取り組み、施設運営体制の組織、適正な管理や経理状態、安全管理、緊急時の対応、環境・障害者への配慮、過去の実績等について審査し、総合的な判断で選定した。指定期間は、平成22年4月1日から平成25年3月31日までの3か年とする。

「JIALEERT」について

Q 「JIALEERT」（全国瞬時警報システム）の内容について。

A 「JIALEERT」の読み方は「ジェイ・アラート」と読み、日本語では「全国瞬時警報システム」という。

これは、地震、津波、火山・気象の情報や警報、また、弾道ミサイル、航空機攻撃情報などを緊急に住民に通報する必要があるときのシステムである。職員がいちいち対応しなくても、24時間自動

的に起動し通報される。国から町まで一〜二秒、町から各家庭まで防災行政無線で24秒位で通報される。工事費は全額国費である。

軽自動車税の納期の変更について

Q 軽自動車税の納期が変更されたが、その理由は。また、近隣町の納期及び登録車数の推移は。

A 賦課期日は4月1日現在ということでは変更はない。現在の納期は、4月11日から4月30日までとなっているのを、改正で5月1日から5月31日までとする。



納期が改正される軽自動車税

理由は、3月分の移動通知書を軽自動車協会から受け取り、4月11日までの短期間で移動処理を終え、納付書の発送を行うことになるが、その時期は住民税申告の整理と重なり、また軽自動車の登録件数も多くなっており賦課誤り等をなくすため納期の改正を行う。近隣の町では、御船町、益城町、美里町が5月、嘉島町は平成22年度から5月となる。甲佐町の軽自動車登録数は、5年前の平成16年4月1日現在が7736台、平成21年4月1日現在が8781台となっている。



水道の老朽管布設工事

水道の老朽管布設工事について

のでもう少し早いペース
のできないのか。

Q 早川地区の水道管の老朽管布設工事とあるが、甲佐町全体で布設替えの必要延長はどれ位あるのか。また、その布設替えの計画は。

A 配水管は町全体で延長11.5kmある。その中で6割が今後布設替えの必要がある。

布設替えは10年計画で考えている。

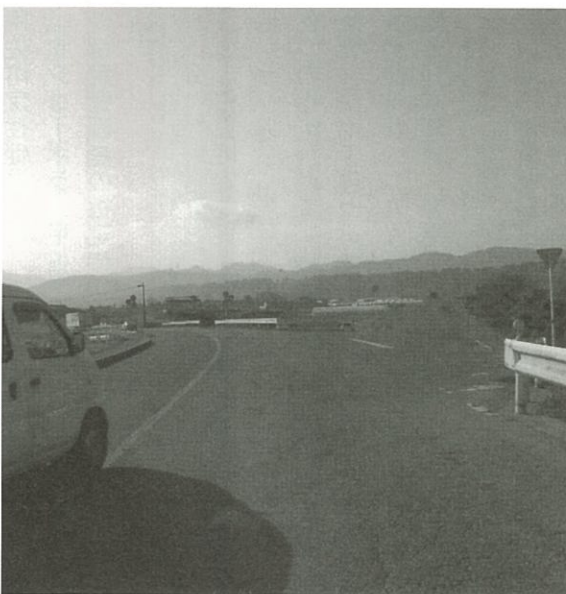
Q 布設替工事完了に10年が必要なら替えた管がまた老朽化してしまう

A 乙女地区の水源開発やその他の工事箇所もある。

現在の水道会計の財政からみて年間工事費は5000万円程度が限度と思われるので、できる範囲内で計画的に進めていきたい。

緑の産業再生プロジェクト促進事業補助金について

Q 緑の産業再生プロジェクト促進事業の内容とは。



望まれる右折レーン設置

県道、国道に右折レーンの設置を

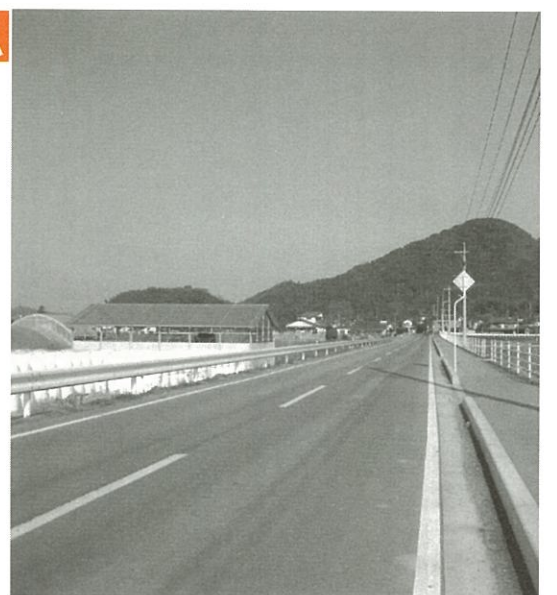
Q 県道、国道に右折レーンがないため、事故、交通渋滞がある。ぜひ県に設置の要望を。

A 国の緊急対策事業で、森林の間伐を促進し、その間伐材を集成材として利用する。その集成材を高周波で接着するため機械を導入する補助金である。
導入者は、甲佐町早川のマルヤマウッディ開発(株)で、国が50%、県が5%補助する。

甲佐小学校の外構工事費について

Q 甲佐小学校の外構工事費が計上されているが、発注方法はどうされるのか。この工事費からみて対応できる町内の企業はあるのか。

A 道路の改修期成会ができている路線については、期成会の陳情書で改良要望と併せて要望している。
他の路線についても要望はしているが、今後も機会あるごとに要望していきたい。



道路改良事業にも地方債が利用されている

A 工事の内容は、舗装工事、排水路の工事等である。

原則的に地元の企業にお願いしたいので発注の方法について検討したい。

地方債の利率について

Q 地方債の利率が年5%以内ということですが、算化されているが、実際どれぐらいの利率か。

A 現在の借入れ利率は1.1%であるが、社会情勢等によって変動する。借入れの際は、利率の低い有利な金融機関を選んで借入れを行っている。

一般質問 と答弁



北畑 常博 議員



農業問題について

北畑議員

農業機械の導入について、補助の見直しを考えているか。

本田産業振興課長

農業機械については、現在の補助要項（事業費の2割の補助で限度額100万円）を、もう少し有利な内容にと検討中である。

また、国、県の補助事業についても、何らかの支援策を検討している。

北畑議員

ろくじ館は、以前より品数も多くなり、お客も増えていると思うが、販売方法は、直売だけでな

く発送するような考えはないか。

本田産業振興課長

現在のところ、地産地消ということで販売しているのですが、発送の件については、何ら検討をしていない。

北畑議員

無農薬の米を作る場合など、土地を一か所に寄せる必要があると思うが、

農業委員会では、農地の集積についてどのような取り組みをしているのか。

本田産業振興課長

農地の集積については、農地利用推進計画に基づき、年二回、移動の調整を行っている。

今後は、機械の利用でできるような、また、環境に配慮した農業が進んでいくような集積も必要かと考えているので、農業委員会としても推進していきたい。

道路問題について

北畑議員

町の単独事業として実施される道路計画について、来年度の予算はどれくらいか。

本田建設課長

町単独の事業については、維持工事的な事業をやっており、ここ数年は、総額2000万円程度の仕事を行っている。

北畑議員

庁舎前の国道の進捗状況はどうなっているか。

本田建設課長

国道443号については、甲佐小学校前の交差点改良に本年度予算が付



建て替え予定の甲佐中学校

学校建設等について

北畑議員

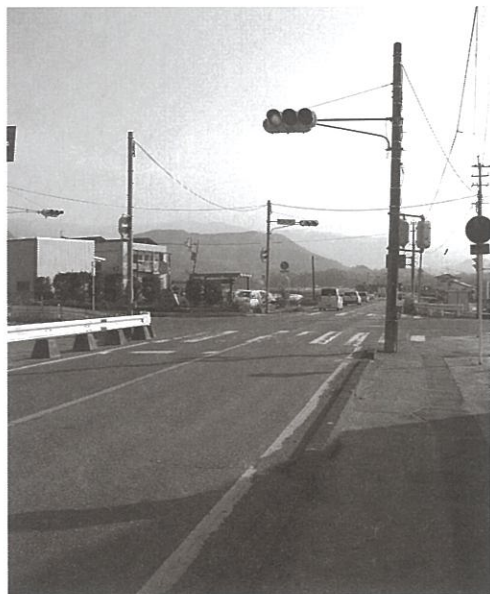
中学校の建設計画はどのようなになっているのか。

伊豆野学校教育課長

本年度において、基本構想及び基本計画の策定を業者に委託している。

現在、生徒、保護者、先生、区長さんからアンケートを取ったり、ワークショップ等を開催しているが、それぞれの要望等を取り入れたうえで、計画を策定したい。

それを基に、平成22年度において、校舎の実施設計を行う予定である



甲佐小学校横の交差点

宮本修治 議員



学校教育のありかたについて

宮本議員

不登校、いじめ等の昨年との比較についてお尋ねする。

伊豆野学校教育課長

不登校の生徒は、H21年2月末では16名であった。三年生の7名が卒業し、1名が回復傾向にある。新たに不登校となった生徒はいないので、現在は8名である。

宮本議員

現在は8名ということであるが、この件で、学校とはどのような協議をされているのかお尋ねする。

また、子どもは町の宝として、町長部局と連携

し、不登校を一人でもなくすような取り組みを行っていただきたい。

溜渕教育長

不登校問題については、学校教育の中でも重要な課題と捉え、学校と対応を協議している。

また、生徒指導連絡協議会を設け、その中で小・中・高の各学校の問題を協議し、現状確認を共有するとともに、不登校等のきつかけとなりやすいいじめ等が発生しないように、職員朝礼を

はぶき、担任は教室で生徒の様子を見守るというようなことも行っている。

この件については、更に町長部局との連携を図りながら、対応していきたい。

ろくじ館の運営について

宮本議員

ろくじ館は、ふるさと雇用再生事業を活用し運



ろくじ館の会議室

営されているが、その利用状況をお尋ねしたい。

本田産業振興課長

出品者の負担をなくすために専任の販売員をおき、営業時間も、今までは午前7時から午後2時までを午後6時までに延長している。

その結果、会員も13名増え、前年の9月から11月までとの比較であるが、お客も3043人の増で、販売額も約190万円の増となっている。

宮本議員

特産品開発に向けて、販売のためのスペース等の確保を行うため、ろくじ館の会議室や厨房室を特産品の販売所として有

効活用ができないものか。

奥名町長

今後、特産品が実現した場合、販売所の確保が問題となるが、本町の地産地消を図る物産館的施設はろくじ館が主なものではないかと考える。3年後に完成する特産品の販売等を考えると、現状の施設でよいのか、もっと充実させるべきではないかとのお考えも持ちあわせている。

しかし、ろくじ館内のフロア全てを直売所にするについては、現在会議室等の利用もあっているため、いろいろな協議が必要である。

今後の人口増の取り組みについて

宮本議員

少子化が進んでいるなか、人口増や活気あるまちづくりを図るための定住促進事業の実施状況やPRの方法についてお尋ねする。

井上企画推進課長

定住促進要綱に基づき、40歳未満の方で、同居の40歳未満の配偶者がおられる場合は、承認団地で

100万円、また、承認団地以外の場合や個人から購入の場合は、15万円から30万円までの助成を行っていて、平成21年末までに助成を行った世帯数が、58世帯となっている。

また、PRについては、甲佐町、国土交通省、熊本県のホームページへの助成金の内容の掲載、さらに、RKK、TKU、KAB、JTといった住宅展示場にPR用のパンフレットを配布し、PR活動を依頼している。

※ 詳しくは、役場企画推進課にお尋ねください。



緑川団地

井芹 しま子 議員



農業振興について

井芹議員

町は農業を基幹産業として位置付けている。農業振興なしに地域の活力も生まれない。思い切った農林業予算を増額するとともに、農業振興の為に知恵を絞り援助を強めるべきではないか。

農産物の価格下落や高止まりの資材・肥料代によつてJAの購買や借入金の返済ができない、これでは年は越せないとの声も上がっている。JAへの支払猶予対策を申し入れるべきでは。

また、町独自の利子補給などの財政支援が必要

ではないか。

奥名町長

JAについては相談を行うという動きもあると聞いているが、町独自の農家個人に対する支援は考えていない。

井芹議員

甲佐の農業の将来にとつて後継者、担い手の育成は待ったなしの課題だ。非農家からの新規参入、離職就農者、定年帰農者、Uターン、Eターン対策を講ずるべきでは。

奥名町長

地域農業の担い手や新規就農者の育成確保につ



農業体験

いては、県とタイアップして支援を行っている。

また、町の中学生を対象にした農業体験や特産品開発による所得向上の対策も進めている。

井芹議員

ニラやスイートコーンなど、主要作物への価格保障制度を考えるべきではないか。

奥名町長

本町で主に栽培されている品目はニラやスイートコーンが挙げられるが、本来農作物は、市場原理に基づいて努力しておられ、価格保障は財政面の点からも導入は厳しい。

井芹議員

地産地消の推進拡大を図るべきでは。

奥名町長

本町の地産地消の取り組みは、目立った動きはないが、現在、学校給食において、米・ニラ・みかん・スイートコーンなどは使用している。

今後、特産品開発と連携しながら、生産者、流通業者、学校関係者など協議のうえ、取り組みを

検討したい。

井芹議員

学校給食に地場産の農産物の拡大を。

伊豆野学校教育課長

学校給食への地場産の活用は、安心・安全の食の視点から大変有効と考えており、今後、JA、地元業者との協議を進め、使用拡大を図りたい。

井芹議員

ろくじ館の活用については、いろいろ限界がある中、農業振興の為に新しい物産館構想を立ち上げるべきでは。

奥名町長

今後、学校建設も控え、この事業が終了しないと新たな物産館建設は難しい。

町営住宅問題について

井芹議員

不況が深刻化する中、仕事の激減や解雇によって家賃やローンの返済ができない、税金の滞納など、家族を抱え住む場所を失う状況は、わが町を



町営住宅

本田建設課長

公営住宅法第二十五条では、入居の選考については、公正な方法で入居を決定しなければならぬと定めており、これを受け、公営住宅の審査会を設けている。

医療費の一部助成制度の運用規定を

井芹議員

国保制度では特別の理由のある被保険者で、一部負担金を支払うことが困難な人には、減免や徴収猶予の規定があるが、厚労省も積極的運用の通達を出しており、町は規則・要項などの運用規定を設けるべきではないか。

奥名町長

国保会計の健全性を保つ上で、現段階での実施は難しいと考える。

井芹議員

公営住宅法には、入居審査会の設置を義務づける条項はない。入居審査は、職員で行う性質のものではないか。

本田 新議員



道路整備計画について

本田議員

本町では、この12月に五か年の道路整備計画を立てられている。そのなかで20年度まで実施計画にあった道路や今回、各区の区長さんから取り寄せた地域の要望を合わせて計画を立てられたと思うが、事業仕分けの内訳を教えて欲しい。

本田建設課長

20年度には13路線計画されていた。施工済みが2路線、現在施工している路線が4路線、計画に採択された路線が4路線で3路線が不採択となった。それから、各行政区

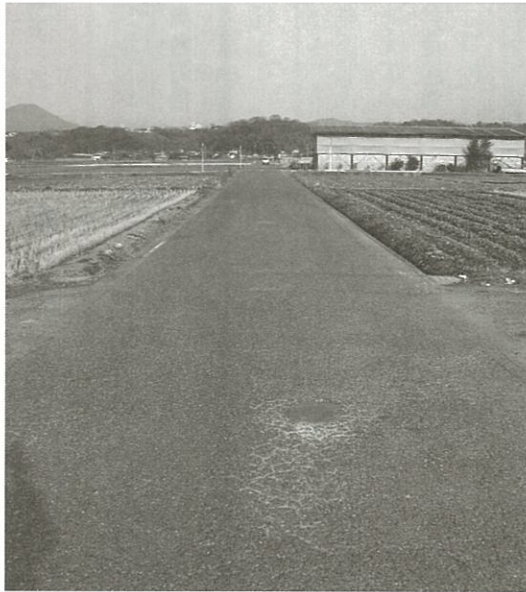
から要望された路線が12路線あり、うち4路線が採択され、3路線が不採択、その他5路線は維持工事等に対応していきたい。

本田議員

この計画では年間どれくらいの予算規模を考えておられるのか。またその財源の内訳を示して欲しい。

甲斐総務課長

平成22年度から平成25年度まで、大体1億円から1億5000万円間の事業費、平成26年度に



町道県道山出線

おいては2億3700万円、平成27年度においては2億6000万円をみている。財源については国からの補助金、残りに対して過疎債を当てたいと考えている。

本田議員

この計画の中で町道県道山出線があるが、この路線を町が整備し、その後県に寄付をして、その見返りに県に対して田口橋の建設を促進させたり、メロデイ橋からの県道御船甲佐線の改良工事要望してみてもどうか。

奥名町長

昨今の県の財政状況を考えると新規事業の採択

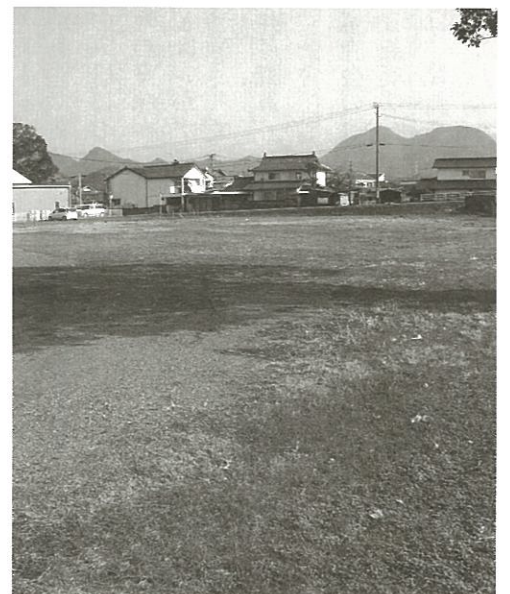
は難しい。そこで県の単独事業についての町の負担額と仮に町が国庫補助事業を利用して、その補助残は過疎債を充当するような事業を実施した場合との金額を比べてみると、あまり変わらないと考えられる。

そういった重要路線を町が整備をし、周辺の土地利用計画の構想を持つたうえで県に働きかけをする。田口橋の早期改修にも繋がると考えられるので、十分に検討していきたい。

本町の振興策について

本田議員

本町の振興策として人口増対策・定住促進事業・子育て支援等の施策に取り組んでおられるが、ここ五か年の各地区別の転出・転入の人口の増減を示す資料を見てみると甲佐地区の減少が目立つ。そこで減少に歯止めをかける為に、つい先だって購入した雇用促進住宅



緑町の町有地

のような集合住宅を町の所有地に作ってみてはどうか。

奥名町長

確かに将来宅地になりそうな町有地は確保してある。町有地の活用については行財政改革のなかでもいわれているので、今後検討を加えていきたい。

や事業展開を考えておられるのか明らかにして欲しい。

奥名町長

特産品開発により、それを基に新しい組織・団体の設立も考えられるので、組織の継続や拡大、人材の育成についても行政として支援が必要だと考えている。そのためにも、JA・商工会・観光協会ともタイアップしたソフト面での事業展開が必要であると思っている。

特産品開発について

本田議員

今後三か年、2000万円をかけて特産品開発を計画されているが、出上来上がった特産品に対し、行政としてどういう支援

また、委託しているコンサルタントを十分に活用するとともに、地域住民の方々のご意見を聴取しながらこの事業を進めていきたい。

傍聴席から一言

「子ども議会を終えての感想」

平成21年10月22日に、甲佐中学校の生徒18人が参加し、初めての「子ども議会」が開催されました。

甲佐中学校3年 伊豆野 皓平

今日の子ども議会は、前回のリハーサルほどは緊張しませんでした。

前は、「うめもと」を「うもうと」と言ってかなり、少し不安が残っていたので、今日はなるべくゆっくり文節を区切って言ったりして、かまわない努力をしました。実際に議会でも一度はかんでしまっただけ、そこも冷静に対応することができました。

実際の議会は、威圧感がありました。普段議会被されている方々や傍聴席の方々がもう既に待っていて、入る時は議会の重圧につぶされそうでした。

一般質問答弁で少しこちらが思っている事と違ったりすることがあったり、質問者にもう少し食いがたつて欲しい所もあったけど、今はとてもホッとしています。

甲佐中学校3年 井上 南

議会という初めての経験をして、とても緊張したけど、自分たちの意見が言えてよかったと思います。

1番に発表するのはとても緊張してかみかみだったけど、あまり体験することがない体験をさせてもらったので、自分にとっていい経験をさせてもらったと思います。

課長さんの言葉もわかりやすく「なるほど」と理解することができました。

暗い道に街灯をつけるとい質問に対し、そのところの区長さんとお話になっていて、「なるべく早く」とのことだったので質問してよかったと思います。



甲佐中学校3年 池上 遥

私は、初めての子ども議会に参加できて良かったです。今回の議会を行うまでは、インターネットを使って調べたり、質問項目を考えたりしてとても大変でした。

しかし、議会を終えた今では、とてもホッとしています。議会中は緊張して上手く話せなかった部分もあります。それでも、町長さんや各課長たちはとても丁寧に答えてくださいました。

私は、このような議会に参加できたことは貴重な体験だと思うし、誰もができる体験ではないと思います。そして、議会に参加したことで、今まで全くの関心のなかった町議会のことや町の方針についても関心を持てるようになりました。

甲佐中学校3年 梅本 裕也

子ども議会に参加してみて、とても良い体験になりました。町長さんをはじめ、各課長さんの前で意見を言えたのは、貴重なことだと思います。

リハーサルの時は、初めての議会の場に入ったので緊張していたけど、昨日の甲佐町子ども議会では、落ち着いてゆっくりしゃべることができたので良かったです。

また、自分以外の執行部の人も、ゆっくりと大きな声で言っていたので安心しました。また、町長さんや各課長さんの答弁は、とても丁寧で分かりやすくはつきりと話していらしたので、すごく勉強になりました。

自分は、「甲佐中学校を建て替えてほしい」ということを言ったけれど、学校教育課課長さんの伊豆野さんは、中学生にも分かるような言葉で、いつ建てることができるかなど、詳しい年数まで答えていただし、とてもありがたいと思いました。

この子ども議会を通して、発表の仕方や話を聞く態度など、たくさん学ぶことができました。その学んだことを、これからの学校生活や、生徒会活動に活かしていきたい、より良い甲佐中学校をつくりたいと思います。

甲佐中学校3年 渡邊 未央

甲佐町子ども議会に参加したことは、とてもいい経験になりました。私は、多くの人が集まり、そこで発表するのは初めてだったので、すごく緊張しましたが、この様なことを中学生のうちに経験することができて良かったと思います。

私は、高齢化対策について質問しましたが、お年寄りの一人暮らしをしている人の人数やお年寄りとの交流のことなどについて、とても詳しく、丁寧に説明してくださったので、高齢者の方々のことについて、よく分かりました。一人暮らしをしているお年寄りが、私が思っていた以上に多かったのが驚きました。他の質問でも、各課長の方々が質問に対して、分かりやすく答えてくださって、甲佐町のいろいろなことを議会に参加する前よりも知ることができました。甲佐町は、私の知らない所で、さまざまな活動をしていることが分かって、これからは今までより気をつけて生活していこうと思いました。

議会に参加したことは、私にとってプラスになったと思うので、この経験を学校などにも活かしていきたいです。

また、これからも、みんなが暮らしやすく、誰からも好かれるような甲佐町になるように、自分も努力していきたいと思っています。

甲佐中学校3年 高田 裕大

今回の子ども議会を通して、甲佐町にはそれぞれの課長がいて、甲佐町がより一層いい甲佐町になるために議会で話し合ってくれているんだと思いました。

発言者の席に座ったのは初めてだったけど、意外にもあまり緊張はしませんでした。

さて、自分の発表は、スポーツジムということについての発表だったので、今の甲佐町の現状をみるとスポーツジムの建てることできないと言われました。ですが、甲佐町の町民は今も元気なので、そこまで心配しなくてよかったです。自分はもう三年生なので、「来年も」という言葉を書くことはできないけど、もう少し早く始めてもらっていたらよかったですなと、個人的には思いました。



甲佐中学校3年 前田 夢歌

今日の子ども議会は、とても緊張したし、とても疲れました。しかし、たくさんの方々の質問の答えが丁寧に返ってきて、とても勉強になりました。

また、このような議会に出られた事で、今現在の、甲佐町の状態を知ることができ良かったです。

でも、一つ残念だったのが、質問して返された答えに、もう一度質問ができなかったことです。そのことを含め、今日の自己採点の点数は、75点くらいです。2年生の人達は、多分、来年もあると思うので、今年できなかった質問をたくさんしてほしいです。

甲佐中学校3年 野仲 雛子

子ども議会では、今までリハーサルなどでやってきたことを十分に発揮して頑張ったので良かったです。とても緊張していましたが、一般質問がきちんとできました。

私の質問に対して、町長さんと総務課長の方が私にも分かりやすく、丁寧に答えてくださいました。うれしかったです。

私は、合併のことについて伺いましたが、御船町との合併がなくなった理由なども、詳しく説明していただけて助かりました。議会でも、とても貴重な体験ができて良かったです。今までは、議会とはどういうものかも知らず、甲佐町のことについてもあまり考えていませんでした。しかし、この子ども議会をするにあたり、パソコンでいろいろな課を調べたり、議会を傍聴していくうちに、町ではたくさんの方が、甲佐町を良くするために動いていらっしゃることを知りました。そして、私も甲佐町をより良い町にしたいと思うようになりました。

私は、議員さんのように堂々と意見を述べたりすることはできませんが、甲佐町のために役に立てたというのがうれしいです。

これからも、この貴重な体験を、これからの学校生活に活かしていきたいです。

甲佐中学校3年 井手 誠

今日の子ども議会を通して、甲佐町がもつと活気のあるまちになってくれればいいなと思いました。

僕の質問したことに対し、分かりやすく答えてくださいました。その答えとし、春には『初市』、夏には『鮎祭り』秋には『スポーツ』について、それぞれPRされているそうです。その他にも、新聞の記事として麻生原の『キンモクセイ』についてもPRされているそうです。

自分以外の議員の質問についても、「なるほど」と思えるようなことがたくさんありました。例えば、町内の道路についてのことや町長さんのお仕事について、また、美里町との合併についてなど、いろいろなことについて、町の状況を知ることができました。

本当に、話すときは緊張したけど、いい経験ができたよかったです。

この甲佐町子ども議会が、来年も行われればいいなと思います。

甲佐中学校3年 平田 拓也

今日の子ども議会を終えて、自分はホッとしています。なぜかという議会中ずっと緊張していたからです。あんな緊張したのは初めてでした。自分は15番だったので最後から2番目でした。なので、発言するのが遅く、落ちつくことができませんでした。

開会式が終わり、とうとう子ども議会が始まりました。1番の人からスムーズに発言していきます。

8番まで終え、休憩をはさみました。その時少し落ちつくことができ、自分の質問原稿を見直しました。

そうしているとまた議会が再開しました。13番、14番と自分の順番が回ってきました。「15番議員、平

田拓也君」と言われたとき、緊張がピークに達しました。落ちついてゆっくり原稿を読もうと思いつつ読み始めました。読み終わり、自分の質問に産業振興課の方が答えてくれました。すると、質問を返そうとしていた商品券のことを言われてしまったので、反論ができませんでした。

質問を終え、自分の席に座り、緊張が一瞬でとけました。自分はやっと落ちつくことができました。この議会をとおして、自分はたくさん甲佐町の情報を集め、子ども議会に向けて頑張ってきました。そこで改めて、甲佐町のことを知りました。

自分は子ども議会という、めったに体験できないことをしていただいて、感謝しています。本当にありがとうございます。

子ども議会に参加してみても、とても良い経験になりました。町長さんや課長さんなどの町のトップの方々の前で自分の意見を言えたのは、とても貴重な体験となりました。

甲佐中学校3年 大友 彰

リハーサルの時、初めての議会の場に入ったので自分の意見がちゃんと伝えるか不安でした。本番でも、ガチガチに緊張していたけど、発言者席に立つと不思議と自分の意見を言うことができました。返答の内容は意外な結果でしたが、議会に出られただけでも、すごく勉強になったと思います。

この経験をどう活かすかは、まだ分からないけど、これから、このような場面に出なければならなくなったときに、活かしたいと思います。

※ 次号に続きます。



平成21年第4回臨時議会

平成21年11月24日に、平成21年第4回臨時議会を開催した。

○甲佐町一般職の職員の給与に関する条例等の一部改正について

○甲佐町技能労務職員の給与の種類及び基準を定める条例の一部改正について

○平成21年度甲佐町一般会計補正予算（第4号）

今回の補正は、新型インフルエンザワクチン接種費補助金として、965万6000円（うち、国からの補助金 724万円）を増額し、50億7096万7000円とする補正予算を全会一致で可決した。

議員行政視察研修について

本町議会では、10月27日から29日までの2泊3日の日程で、群馬県桐生市の「清掃センター」及び同県片品村の有限会社「尾瀬ドーフ」二か所の行政視察研修を実施しました。

一か所目は、ごみ処理の問題で桐生市の「清掃センター」を視察しましたが、所長はじめ各係の担当者から施設の概要等についての懇切丁寧な説明がありました。

この清掃センターは、平成8年4月、桐生市ほか六か町村広域市町村圏振興整備組合によって桐生市新里町野地区に周辺環境の保全と公害の未然防止を最優先し、新里温水プールの関連施設を含め、351億6427万5千円で建設されています。

現在は、平成18年3月26日の桐生広域圏組合解散に伴い、同年3月27日に同組合構成市町村の中心的役割を担っていた桐生市が同事業を全面的に引き継ぎ、みどり市、太田市旧藪塚本町区域及び伊勢崎市旧赤堀町区域の3地区のごみ処理に関する事務受託事業を行っているとのこと。

中間処理施設として敷地内にごみ処理から最終処分場までを一貫して有し、全国的にも数少ない施設であるとともに、ごみの処理施設から発生する熱を有効活用した発電事業をはじめ、隣接する温水プール及び福祉センターへの余熱供給を行うなどの地元地域の環境整備等、施設の効果的な運営をされています。

本町においても、このごみ問題については、「御船町・甲佐町ごみ処理改革プロジェクトチーム」を立ち上げ、国や県の方針を踏まえての今後の適切なあり方について検討していますが、その一つに、

より広域的な取り組みの中での大型規模の処理施設建設についても視野に入れてあり、今回の研修については、規模こそ若干の違いはありますが、今後の進め方について大変参考になる研修でした。

二か所目は、特産品開発関係で片品村の有限会社「尾瀬ドーフ」を視察しました。

社長の千明氏自ら、商品開発の概要について熱く語っていただきました。この会社は、片品村で栽培される高品質の地大豆「大白大豆」と尾瀬の湧き水を使って製造した「ざる豆腐」ほかの商品の販売を行っています。

最初は、食の安全性や体によい商品をつくるという考えはまったくなく、輸入大豆を使用した豆腐を製造していましたが、創業から2年位経った頃、村内の高齢者の方から「コクがあり、うまい『大白大豆』という地大豆がある。」と教えられたことと、千明氏自身が豆腐で片品村全体を活性化させるという目標を持っていたことが重なり、この地大豆を使用した純国産豆腐を開発されました。

また、単に特産品の開発ということではなく、自家農園での栽培以外にも地元への貢献を含めた地元農家への委託栽培や後継者問題などに対処するため、農業体験の受け入れを積極的に行い、片品村で農業をしたいという人材を雇用・育成しているとのこと。

特産品開発については、本町も3年間の計画で現在進められています。なかなか難しい面が多々あると思われます。

今後の展開に期待するとともに、今回の研修を機に議会としてどういった支援ができるか模索しているところです。



群馬県桐生市「清掃センター」での研修

編集後記

初めての「子ども議会」も無事に終わり、参加した生徒たちの感想文が届きましたので、今回と次回に分けて掲載の予定です。

子どもから見た町の課題についての質問や提案が町執行部に出され、質疑応答が行われましたが、感想の中には、この子ども議会が今後も開催されたいという意見が多くありました。

昨年は、国政での政権交代もあり、新政権の舵

取りに期待する方も多いと思いますが、近頃は、政治とカネの問題で混迷を深めているようです。

また、世界では、いろいろな大災害がおきていますが、今年も一年、大きな自然災害もなく、日々の生活に希望もてる年になることを願っています。

議会広報編集特別委員会

- 委員長 本田 新
- 副委員長 本郷 昭宣
- 委員 緒方 哲哉
- 委員 宮川 安明
- 委員 井芹しま子